開学２年目をふりかえって

学長　斎　藤　秀　晁

年度当初に教員が12名加わって、教員定数となり、それぞれの専門教科分野の充実をみた。臨床実習に入る２年生に対しては、本学で初めての戴帽式が県や市、その他関係団体、学生家族の臨席のもと、厳粛な雰囲気の中で行われた。また、教員海外派遣事業として２名の教員がそれぞれアメリカ、北欧への海外研修にでかけ、成果をあげることができた。更に教員の研究面では共同研究のうち、３テーマについて県予算がつき、研究意欲の高揚に向かうことと思う。

また、年度の後期に入って、臨床実習が開始され、市中の２病院、市町村の保健施設や保育園へ学生がグループ別に配属されて行われた。

更に懸案であった本学の校歌については、作詩・杉　みき子先生、作曲・後藤　丹先生により完成をみた。詩情あふれ、軽快な青春讃歌でもあるこの校歌が、学生たちに親しまれいつまでも唱い続けられていくことを期待している。

その他、各種委員会では目に見えぬ苦労が多々あったことと思うが、この年報の紙面には見えない。今年度は完成年次であり、第一回の卒業生を世に送らねばならない。お互いに協力して立派な学風を築き上げ、社会に貢献したいものである。

平成８年５月